

～ 身近な生き物を見つけよう ～

さっぽろ生き物さがし 2021

★ さっぽろ生き物さがし2021について

札幌市では、毎年春から秋にかけて、市内の自然環境の状況を把握するために、指標となる生き物を市民みんなで調べる一斉調査を実施しています（2015年から継続実施）。2021年度は前年に続いて新型コロナウイルス感染症の影響下での開催となりましたが、予定通り5月から9月まで実施することができました。今回も他の多くのイベントが自粛・中止となる中で、大変多くの申し込みをいただきました。

● 今回の調査対象の生き物たち ●



★ 調査結果の概要について

これまでで最大の参加者だった前年のさらに2倍近い応募があり、**432チーム**、約**2,185名**もの方から結果報告があり、**11,946件**（対象種10,332件）のデータが得られました。調査した地区数は**465地区**となり、最も多くの地区を調査することができました。

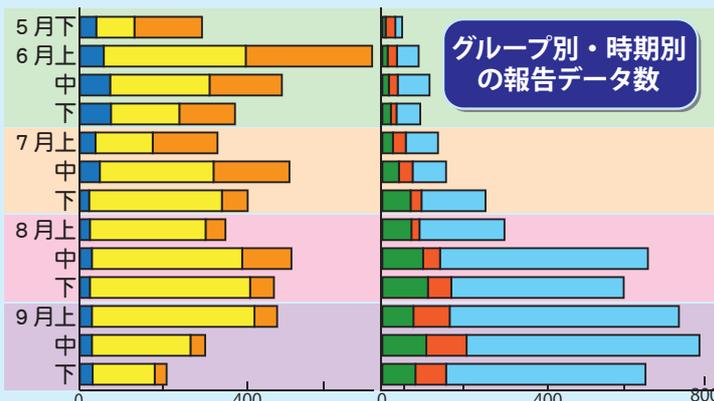
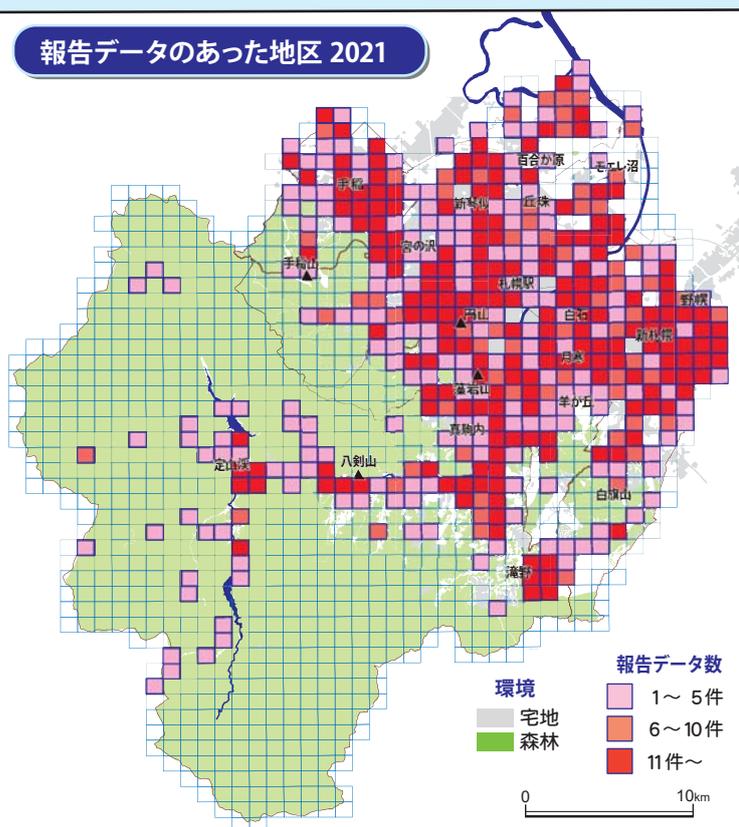
今回の調査の概要

- 調査期間 2021年5月21日～9月30日
- 対象範囲 札幌市内（1キロメッシュ数1,192）
- 報告者数 432チーム（申し込み1,284チーム）
- 調査報告数 データ数11,946件
- 調査地区数（1キロ四方単位）465地区（市内の39%）

報告データ数の推移



報告データのあった地区 2021



- キツキのなかま 551件
- バッタのなかま 755件
- チョウのなかま 3,522件
- 草・つるの実 561件
- マルハバチのなかま 1,603件
- トンボのなかま 3,340件

今回もっとも多くの報告があったのはチョウのなかま、次いでトンボのなかまでした。

季節別に見ると、バッタ・草の実・トンボは8月中旬以降に多くの報告がありました。今年の7月中旬から8月上旬にかけての猛暑が、調査者にも動植物にも影響しているかもしれません。

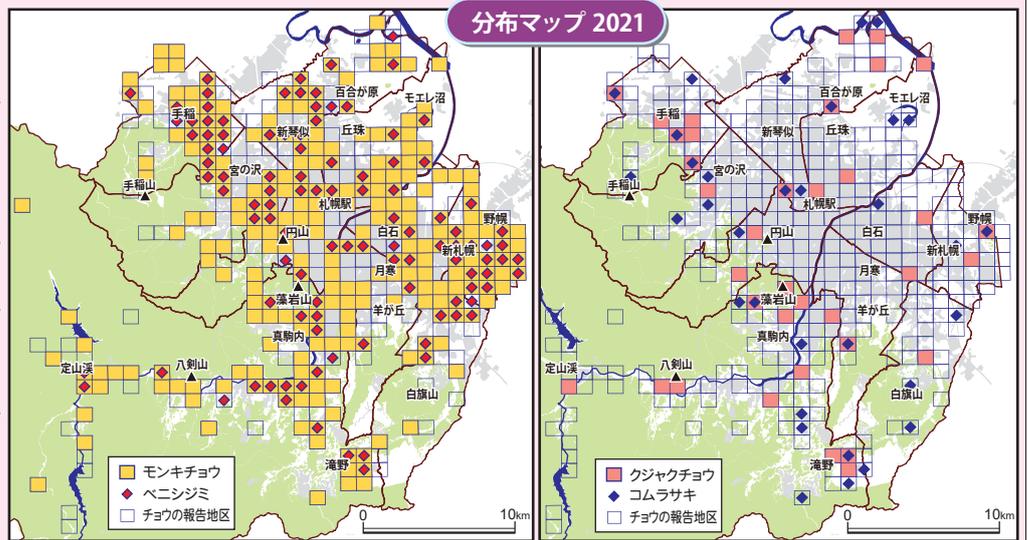
チョウのなかま

種名	地区数	データ数
・モンキチョウ	277地区	1,180
・ベニシジミ	116地区	254
・クジャクチョウ	41地区	53
・コムラサキ	35地区	48
・キアゲハ	177地区	475
・アゲハ	96地区	162
・ミヤマカラスアゲハ	69地区	112
・カラスアゲハ	47地区	87
・ミヤマカラスアゲハ類	94地区	208
・エゾシロチョウ	83地区	187

前回（2018年）から報告数が大幅に増え、データは10倍、地区数は3倍以上になりました。

最も普通に見られるモンキチョウは市内の調査地区ほぼ全域で確認されました。一方、分布が限られるクジャクチョウやコムラサキは、食草であるイラクサ類やヤナギ類が生育する河川周辺などで確認されています。

エゾシロチョウは図鑑にあげていない種ですが、大量発生

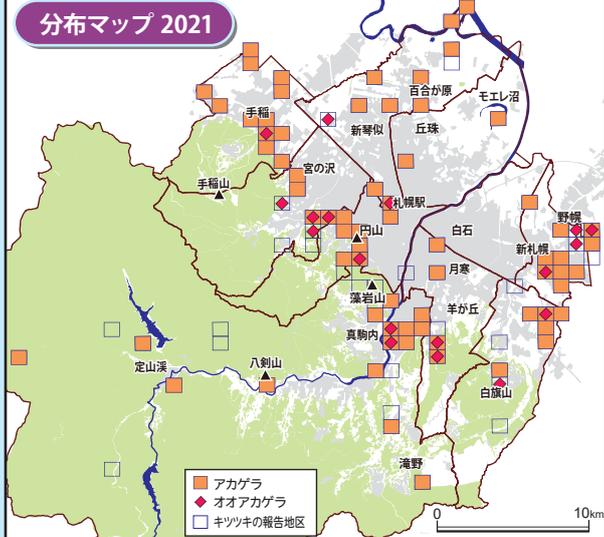


年だったこともあり、調査した地区の22%（前回の2倍以上）で報告がありました。平野部に多く、庭木や公園の木にサクラやリンゴなど、植樹であるバラ科が多いことを反映しているようです。



キツツきのなかま

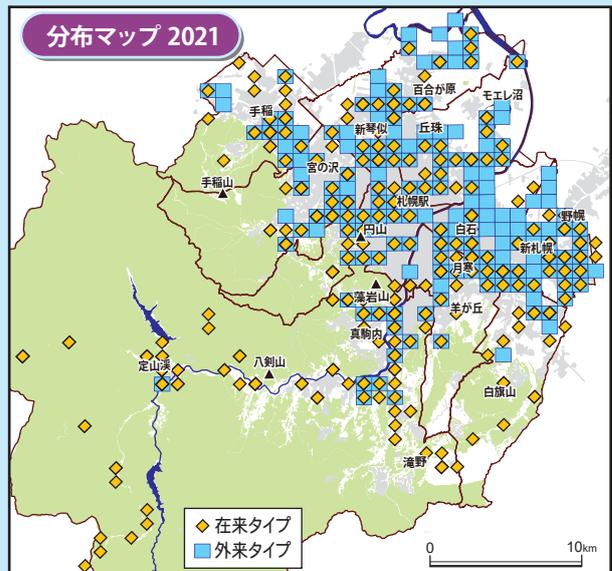
種名	地区数	データ数
・アカゲラ	81地区	277
・コゲラ	45地区	173
・クマゲラ	30地区	44
・オオアカゲラ	20地区	35
・ヤマゲラ	9地区	14
・アリスイ	5地区	6



キツツきのなかまは、2016年以来2回目の対象でしたが、前回の10倍の報告がありました。最もよく見られるアカゲラは山地・山麓だけでなく、樹林の残っている公園でも報告が多くありました。似ているオオアカゲラは、山麓や大きな公園に分布が限られていました。

マルハナバチのなかま

種名	地区数	データ数
・外来タイプ	189地区	599
・三色タイプ	188地区	661
・黄色タイプ	65地区	125
・灰色タイプ	50地区	99
・赤色タイプ	39地区	84



各タイプの分布はこれまでと大きな変化はありませんが、2021年は本来なら働きバチが活発に活動する7~8月になっても個体数が少ない傾向が続きました。外来種のセイヨウオオマルハナバチは、真駒内から石山にかけて分布が連続していることが明らかになりました。

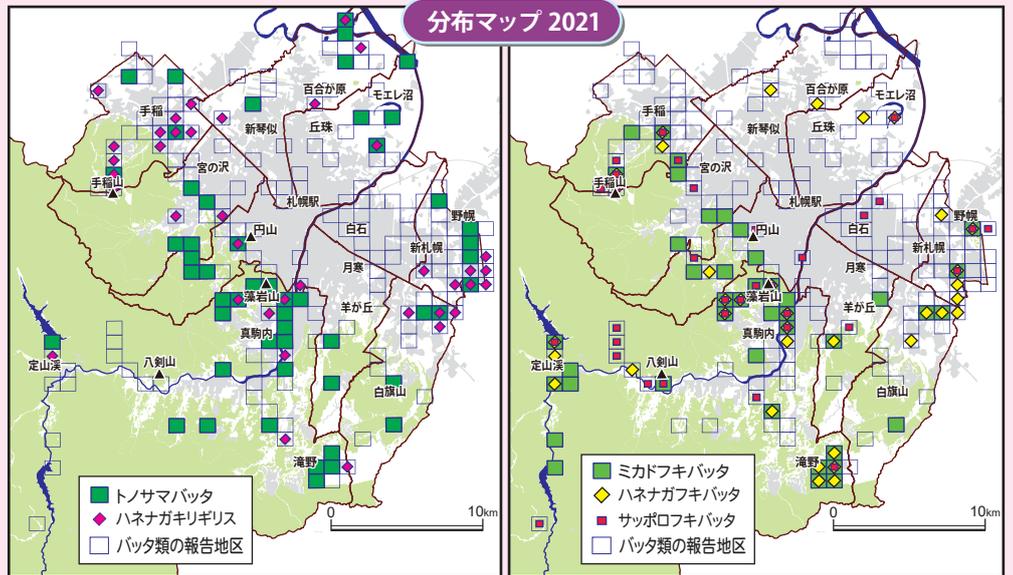
バッタのなかま

種名	地区数	データ数
・トノサマバッタ	54地区	79
・カンタン	53地区	92
・ハネナガキリギリス	39地区	53
・ミカドフキバッタ	43地区	84
・ハネナガフキバッタ	35地区	72
・サッポロフキバッタ	35地区	56
・ケラ	11地区	14
・ヒナバッタ	77地区	150

前回（2017年）に比べて3倍以上の報告があり、分布の特徴がわかりやすくなりました。

大型のバッタであるトノサマバッタとハネナガキリギリスは、山地や平野部の郊外にのみに見られました。トノサマバッタは草丈の短い草地、ハネナガキリギリスは逆に草丈の高い草地にいらしています。市街中心部にも河川敷などには草地がありますが、大型のバッタがくらししていくのに十分な環境が少ないのかもしれない。

フキバッタ類のうちミカドフキ



バッタはほぼ山地・山麓に限られています。サッポロフキバッタは豊平川などの市街地を流れる大きな河川の草むらなどにはくらししているようです。



トンボのなかま

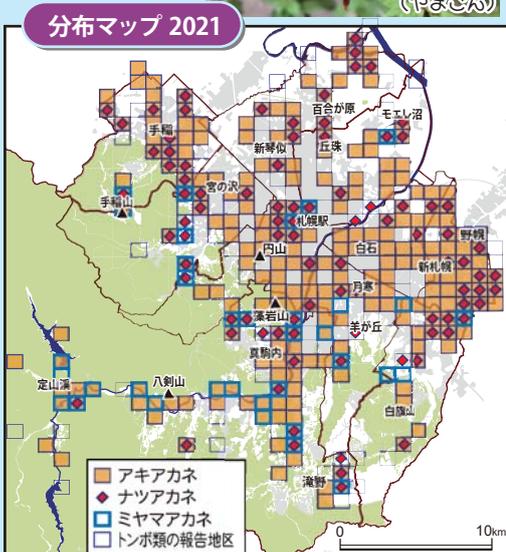
種名	地区数	データ数
・アキアカネ	255地区	1,579
・ノシメトンボ	161地区	452
・ナツアカネ	93地区	227
・ミヤマアカネ	37地区	90
・シオカラトンボ	83地区	167
・シオヤトンボ	13地区	26
・オニヤンマ	65地区	134
・コオニヤンマ	11地区	17
・オオルリボシヤンマ	43地区	82
・ルリボシヤンマ	25地区	41
・ルリボシヤンマ類	6地区	9



これまでで最大の50種3,340件ものデータが集まりました。

アキアカネは全グループのなかでも最も多くの報告がありました。報告があった地区の78%、市街地中心部でもほとんどの地区で見つかっており、市街地にも幼虫が生息できる環境が残されていることを示しています。

一方、ミヤマアカネは主に山地や丘陵地にいらしており、市街地など平野部ではほとんど見られません。



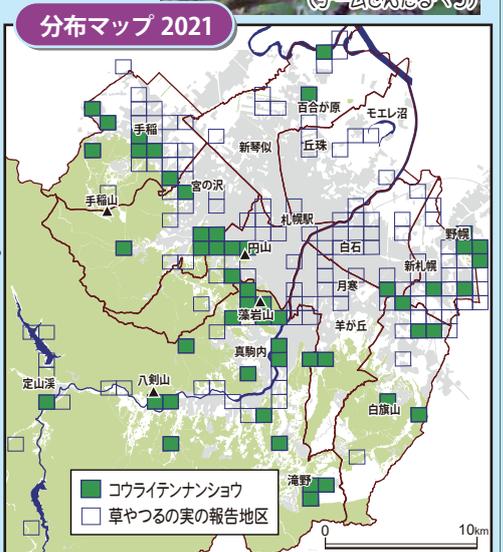
草やつるの実

種名	地区数	データ数
・ヤマブドウ	101地区	213
・ガマ	67地区	106
・コウライテンナンショウ	54地区	107
・サルナシ	27地区	49
・マタタビ	5地区	10
・ミヤママタタビ	1地区	1
・トチバナジン	8地区	13
・ツルリンドウ	3地区	3



前回（2017年）に比べて5倍近いデータが集まり、市内における各植物の分布がはっきりしてきました。最も多く確認されたヤマブドウは本来は森の植物ですが、市街地でも広く確認されました。

コウライテンナンショウは市内の山際から山地にかけて多くの報告があったほか、自然林が点在している厚別区や清田区の住宅地近くでもまとまって確認されています。



★ 参加チームのランキング発表!

今回参加いただいたチームの報告数ランキングを発表します。上位チームには、限定グッズをお送りします。今回もたくさんの方の報告、写真をありがとうございました。

報告数（今回対象のグループ）ランキング

※new は今回初参加チーム

チーム名	報告データ数	報告地区数	参加人数	チーム名	報告データ数	報告地区数	参加人数
1 チーム龍	1,226	29	3	11 チーム白土家	156	16	3
2 チームカーブ	973	81	4	12 青時雨	142	8	3
3 イッシー	917	62	4	13 熊介チーム new	117	20	2
4 野鳥大好き new	868	63	4	14 チームゆうじん new	99	13	4
5 チームさんたるべつ	406	31	10	15 チームバッキー	98	26	5
5 ヘビーまめさんず	406	19	5	16 エンスージアズム	85	15	3
7 あまちゃん	263	34	1	17 いまいどり	84	6	4
8 流星群ゴットファイヤーズ	232	38	7	18 カブトムシ	82	14	3
9 かいけつゾロりんず	214	37	4	19 チーム Hiro new	77	1	5
10 さゆっち new	163	2	3	20 チームあさの	75	14	2



★ 写真をありがとうございました! コンテストの結果発表!

参加者の皆さんには今回も多くの写真をお送りいただきました。事務局選考により選ばれた次の10点の写真について、「バーチャル環境広場さっぽろ2021」(1/8~14)におけるウェブ展示会で人気投票を行い、ベスト3を決めました!! (総投票数: 186票) 1位はチーム・ゆっさ連合隊のアカゲラでした!



1位: アカゲラ (ゆっさ連合隊)



2位: ケラ (青時雨)



クジャクチョウ (ヤマセミ)



ツユムシ (チームバッキー)



ナツアカネ (チーム龍)



コウライテンナンショウ (熊介チーム)



3位: エゾオオマルハナバチ (エンスージアズム)



ヤマブドウ (チームさんたるべつ)



アキアカネ (K88)



モンキチョウ (野鳥大好き)

Twitterでも情報発信しているのでフォローしてほしいyo!!

札幌市の生物多様性PRキャラクター「カッコー先生」

カッコー先生のTwitterはこちら!

★ おわりに

2021年の「さっぽろ生き物さがし」は、2020年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が出ている中での開催となりました。その中で大変多くの方に申込みいただき、市内の生き物たちとふれあい、情報を集めていく機会がたくさん生まれました。今後も札幌市では、対象グループを変えたり手法を改善したりしながら調査をつづける予定ですので、ぜひご参加ください。また、提供していただいた調査データは、札幌市の動植物データベースに登録し、今後の施策に活用される予定です。

指定したグループ以外の生き物の報告も増えています。これまで同様、セミ類は神戸さん(北海道大学)、両生類・爬虫類は徳田さん(北海道爬虫両棲類研究会)という専門家に種類の判定やアドバイスで協力いただきました。

○さっぽろ生き物さがし2021事務局 (さっぽろ自然調査館内)

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45山岸ビル
 ☎電話 011 (892) 5306 ☎ファクス 011 (892) 5318 (担当: 渡辺・丹羽)

○主催 札幌市環境局環境共生担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎12階
 ☎電話 011 (211) 2879 ☎ファクス 011 (218) 5108

✉電子メール sapporo-ikimono@cho.co.jp

■監修・協力・写真提供 神戸 崇・徳田龍弘・堀 繁久・道川富美子

ウェブサイト <http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/chosa/03chosa.html>

発行: 2022年2月



さっぽろ市
02-002-21-2267
R3-2-1432